

第六次南風原町総合計画 第2回 住民ワークショップ 議事要旨(案)

1 開催日時・開催場所

令和7年11月25日(火) 19:00~20:30 南風原町役場 3階 庁議室
26日(水) 19:00~20:40 南風原町役場 3階 庁議室
27日(木) 19:00~20:30 南風原町役場 3階 庁議室
28日(金) 19:00~20:40 南風原町役場 3階 庁議室

2 出席者

【教育と文化、生涯学習】分野

構 成	出席者数
町内在住者・在勤者	9名
町職員	5名
事務局	2名
委託事業者	2名

【健康と福祉、子育て】分野

構 成	出席者数
町内在住者・在勤者	13名
町職員	6名
事務局	2名
委託事業者	2名

【産業とまちの基盤】分野

構 成	出席者数
町内在住者・在勤者	9名
町職員	5名
事務局	2名
委託事業者	2名

【自治協働と広報、防災・環境】分野

構 成	出席者数
町内在住者・在勤者	8名
町職員	7名
事務局	2名
委託事業者	2名

3 次第

1. 開会
2. 報告事項
 - (1) 第1回住民ワークショップ議事要旨について
3. 資料説明
 - (1) 第2回住民ワークショップの進め方について
 - (2) 南風原町の将来像とまちづくり目標について
4. 住民ワークショップ
 - (1) 各分野の「課題解決方法」を考える
 - (2) まちづくり目標について考える
 - (3) 発表
5. その他
連絡事項及び次回日程等について
6. 閉会

4 配布資料

- 資料1 第1回住民ワークショップ議事要旨
- 資料2 第2回住民ワークショップの進め方
- 資料3 南風原町の将来像とまちづくり目標

5 議事内容

1. 開会

- 事務局より開会の挨拶を行った。

2. 報告事項

- (1) 第1回住民ワークショップ議事要旨について

- 事務局より資料1の説明を行った。

- 質疑応答

Q: 他分野で出た意見・課題等を本日のワークショップに反映させても良いのか伺いたい。

A: 反映させて良い。

3. 資料説明

- (1) 第2回住民ワークショップの進め方について

- 事務局より資料2の説明を行った。

- (2) 南風原町の将来像とまちづくり目標について

- 事務局より資料3の説明を行った。

- 質疑応答

Q: 第六次南風原町総合計画の体系(事務局案)に対して提案をする際は、どのステップで行った方が良いか伺いたい。

A:ステップ3「テーマその2「まちづくり目標」についての意見交換」にて提案をしていただきたい。

Q:まちづくり目標は3つで決定なのか伺いたい。

A:あくまで事務局案なので、意見がある際は付箋に書き出していただきたい。

4. 住民ワークショップ

※P4～「住民ワークショップ意見一覧表」をご参考ください。

5. その他

○事務局より連絡事項及び次回日程等の報告を行った。

6. 閉会

○事務局より閉会の挨拶を行った。

以上

住民ワークショップ意見一覧表

【教育と文化、生涯学習の「課題解決方法」を考える】

項目	現状・課題	課題解決方法
教育環境	学校の取組が見えにくい	幼・保・小・中で合同のルール・文化を作る (「時・場・礼(時…時を守り 場…場を清め 礼…礼を正す)」) 学校の授業で日頃から子どもたちが会議をする時間を作る 沖縄盲学校との取組を増やしてみては? お金の教育
	子どもたちの不登校への対応	家庭教育の充実 子どもの相談窓口(子どもが本当に相談しやすい窓口) 子どもの人権教育授業(自分がどのような状況にあるか認識できるように) 教員の理解促進
	クラスの人数が多い	学校増設・学級増
	学用品の備品化はできないか?	無償化?
	中学校の部活を増やしてほしい	
	小学校は野球クラブに力を入れているのに、中学校には受け皿がない	
	スポーツを続けられる環境がない	
	他の市町村と比べて学校がキレイ	
	町の施設をとても有効活用している(中央公民館でのお遊戯会など)	ネーミングライツ(+スポンサー)→資金 ^増
	子どもだけで遊べる居場所が必要	子どもの居場所→校内利用拡大
	児童館の活用	放課後の安全・安心な居場所
	子育てのサポートが少ない	
	土曜保育の制限をなくしてほしい	
	就学前後のサポートに違いがある気がする	
	ファミサポの登録者を増やす取組	研修の時期・回数を増やす(オンライン受講等)
	我流の子育て解決	おきなわ CAP センター(オンラインセミナー、アーカイブ有)
	子どもの受け皿が足りない 公民館、コミュニティセンター→下校後にここで見守る、それをやる人を見つけるといけない 地域の場所の活用 公民館はいくつあるのか(地区に一つは必要)	公民館の活用
地域との繋がり	子どもたちが自分から発信しなくなっている	
	子どもたちと大人が関わることのできるイベントや地域活動	南風原でもキッザニアを行う(行政×企業のイベント) 小学校単位で職業体験イベントなど(ミニイベント)の回数を増やしていく 町 SNS 加入促進のイベント開催

	地域行事の参画機会 地域行事の継承と人材育成 卒業式の地域の方の参加 「学校応援隊はえばる」の取組は良い 多様な経験をさせるため、人材と人材を繋ぐのが課題	地域行事と学校行事の取組を一緒にする
学び・体験・交流	きらきらと輝く人が育つまち 「16.学力向上及び学習環境の整備」は、「13.学び・体験・交流機会の充実」を充実させると両方上がるのではないか 体験をしたいと思う児童・生徒が少ない 子どもたちの体験を増やす 交通アクセスの良さ→外での体験の機会を増やす 紺や染物を高齢者や子どもたちにもっと身近に感じられるような取組 大人がイベントを企画したものに、子どもを巻き込んでやり方を学べる機会があると良い 学校でやるべきか、受け皿を考えるか検討が必要	<ul style="list-style-type: none"> ・南風原でもキッザニアを行う（行政×企業のイベント） ・小学校単位で職業体験イベントなど（ミニイベント）の回数を増やしていく ・町SNS加入促進のイベント開催
	学生や成人、その他の方々も集まりやすい居場所	
	自習スペースがもっとほしい	
	図書館の本をもっと増やしてほしい	
	町全体で「ファミリー読書の日」を活発に行ってほしい	
	運動したくなるきっかけづくり	正しいことよりも続けられること、小さくすぐ始められること
	運動したくなる遊環構造の周回コース	行動が変わる「仕組みづくり」（お金、努力よりも自然に行動する仕組みづくり）
	黄金森→中心→みんなに・みんなで広げる	無電柱化→美しい都市景観
	木陰、日陰が少ない	
	登下校時の防犯・治安が不安 防犯ブザー以外の対策（GPSの活用など）も必要ではないか 下校後の見回り（若い人（青年会など））	
まちづくり	子どもの声をまちづくりに	
	50代、60代も幸福度を感じる取組	障がい（身体・精神）に限らず、福祉サービスの利用
	コロナ禍で無くなったことを把握して、復活させたい	
	駐車場が足りない（1,000人当たり450台必要）	駐車場整備 立体駐車場
	大型バスが通れる道を増やしたい（渋滞緩和）	
	助成金獲得のためのワークショップ＝市民の民度が上がる	地域振興 協会の助成
	ドッグラン、ペット環境	

【教育と文化、生涯学習の「まちづくり目標」について考える】

意 見
「南風原 ガンバル グローバル!!」
「きらきらと輝く人」→一部の人感があるので変更した方が良い
心の余白が持てる生活ができるまち
「むすまい」(「助け合い、心を合わせて共に」という意味)のキーワードを入れてほしい
「みんなが一緒に」(子ども～高齢者まで)
声かけしやすい→支え合い
学び、育み、支え合い、すべての人が活躍できる <u>仕組み化されたまち</u>
PDCA→OODA(ウーダ)ループのまち
変化の早い多様な社会に対応できる教育(地政学、お金教育)
防災教育に強いまち(エッセンシャルワーカーが多い)
運動や子どもの遊びが自然に続く周回コース
絆の継承、担い手を仕組み化する取組
教育 DX(家庭ごとの格差があるのを学校でどうサポートすべきか)
グローバル教育をアピールしても良いのでは
国際交流に参加した子のその後はどうなっているのか?→もっと PR をして柱を太く
「循環」をキーワードに(南風原で育った子は南風原に戻ってくる)



【健康と福祉、子育ての「課題解決方法」を考える】

項目	現状・課題	課題解決方法
めざす姿	総合的な生活満足度が0点の人は何を望んでいるのだろうか?	アンケートを取って深掘りをする
	50代・60代の幸福度の低さの原因は?	
	50代・60代の方たちも幸福を感じられる取組	生きがいを見つけるワークをやる
	とても楽しいという子たちは何に満足しているのでしょうか?	
	子育て世帯と高齢者が一緒に楽しめる取組	昔遊びは子どもに好評
健康	健康を維持するため定期的な運動が必要しかし、それを実施するためには何から行えばよいか?町全体で取組できることは?	継続的な運動→字ごとの行事を増やす(町で補助)
	若い世代の健康に対する意識	
	健康意識を高める機会が少ない	
	健康に1日の活動をするために体を鍛え、体調管理をする	<ul style="list-style-type: none"> ・全天候型施設(暑くても活動できる施設) ・健康づくり 気軽に通えるスポーツジムの利用料補助 ・アプリで健康づくり(歩数ポイント) ・集まって身体を動かすゲーム(1kg減で○○当たる)
	スポーツが出来る施設が少ないという声をよく聞く	
	卓球やバドミントン、テニスなど年齢の関係ないスポーツ	
	メタボの人が増えている	
	アルコール問題	
	健康的な食事を作りあう	
	健康でいるためには定期的な診察が必要だが、それを補助する仕組みの拡大	
	生活習慣病を放置して重病化→医療費が高くなる	特定健診受診率を上げて病気の予防
	医療費が増えていて財政を圧迫している	
	国民健康保険が高い	
	介護が増えるため対策が必要	
	特定健診にメンタルヘルス(心の点検)もできたら良い	
	心の健康、精神疾患に対する地域の理解	
	50代・60代の心のケアや癒しの場が必要ではないか	
福祉・福祉教育	発達について気軽に受診できる制度がない(病院受診が困難)	
	福祉=良いものではなく大変なもの	
	子ども～大人も含む「福祉教育」について 福祉に対する概念「かわいそう」「大変そう」にフォーカスされて終わっていないか?→そこから生まれる思いやりや優しさもあるが、「体験だけ」に留まらない踏み込んだ福祉教育を充実させたい	<ul style="list-style-type: none"> ・当事者と繋がる場を増やすインクルーシブ教育 ・小学校の頃から福祉の勉強を入れる
	高齢者になっても、障がいがあっても安心して暮らすこと→どうだったら安心?そこを知りたい	
	当事者理解(認知症や障がいなど)	

	障がい児の地域移行 放課後等デイサービスばかりではなく地域との交流も必要	・誰もが支援を受けられる体制整備をする ・線引きをしない支援 ・世代を超えて地域を見る人
	育成福祉会の利用者が約 500 人いるが、地域とのつながりが必要(人手不足)	
	ウェルビービングタウン(支え合い・学び合い・育ち合う)	
	憩いの場(ユンタクできる場・居場所)	
	貧困家庭がなくなつてほしい	
	女性の特定健診の適応(年齢拡充)	
保育・子育て	子育て=一人の人間を育てる、正解がない	・社会全体で協力していく 孤立させない
	子育て支援	・データ(情報)の活用
	子育てをサポートするための取組強化	・家庭訪問をする
	子どもを育てやすい補助	
	時間産後ケア	
	子育て世帯が集えるカフェや場所	来やすくなる場(施設)、行き来できる場 保育所 ⇄ 老人施設 子ども ⇄ 老人
	子どもの相談窓口	
	保育士不足	処遇改善(給料など)
	保育士の配置基準	
	子どもの発達保障と意見の聴き取り	
	子どもの人権教育	
	子どもの貧困対策	教育の格差を無くす(どの家庭に生まれても等しく教育が受けられる)
	学童に入りたくても入れない子がいる	
	放課後ボランティア→有償へ 学童だけでなく、どうにか校内利用ができる ないか?	・学童職員の処遇改善(給与を上げる) ・公民館で子どもたちを預かる
	子どもの知る力を高める→情報・手段を知ることで可能性を広げられる	
	小・中学生で学校が「楽しくない」という子たちが望むことは? 不登校が多い	居場所と自己肯定感を上げる教育
権利とケア	「育児 119」を作つてほしい	
	女性の相談窓口	
	気軽に心理カウンセリングを受けられる(特に男性)	
	心と身体の構造を知る勉強会	
	戦争トラウマや世代間トラウマのケアが必要	
	包括的性教育(地域で小さいから大人まで)	保育園や小・中・高校での教育→地域に広がる
	「むすまい」=「助け合い、心を合わせて共に」という意味	
	やりがいを感じられる活動 これまで関わりがなくても南風原と関わりたいと思えるきっかけづくり	
情報	町の状況をわかりやすく知らせること	・他の字の情報を知れるようにする
	他市町村から転入時に町の福祉関係、役場の組織の説明が乏しい	・町にある居場所について、どんなのがあるか調べてもいいのでは?
	行政の情報が広まっていない(子育て関連)	・自然発的にできているもの、公的にでき

	SNS を活用した周知	たものをまとめる ・MAP づくり(子育て、居場所など) ・「こんなことできるよ」「こんなことしたいよ」「こんな人募集」の掲示板アプリ
	LINE の充実(HP に飛ぶのではなく、LINE から直接申し込み可にする) 「子育てアプリ」を継続してほしい QAB のデータ放送 悩み事相談 相談窓口の案内 父親の繋がり 障がい者スポーツの周知(ブラインドサッカーの周知)	
	年齢に関係なくいつでも誰でも集まれる場所(引きこもり等含む) 近所・友人に引きこもりがいて気になる まだまだ元気な高齢者が地域のためにできること ミニデイ以外居場所づくり(コミュニティ) 福祉は繋がり 子どもをどう大人と関わらせるか 学校以外の居場所 子どもたちが誰でも集まれる居場所 若者(10 代)の居場所づくり 子ども食堂がたくさんあってほしい 中高生のたまり場 青少年センター 多様な文化・価値観を認める	公民館(中央) 子ども食堂、学習支援、ゆんたく、サークル 体験→月 2 回 繋がりの入口 放課後を過ごせる町営の施設を造る 食堂の一部を子ども食堂にする(大人のワンコインチケット制) 各字の公民館で子ども食堂を運営 e スポーツ大会(子ども～高齢者まで)
居場所づくり(子ども・高齢者等)	需要に沿った有効的な施設の充実 10 年以上前と比べて福祉サービス事務所が増大、病院等も増大 沖縄で唯一の盲学校 町内にホテルが無い 学校を増やしたい 公園や運動場に女性が一人でも安心してウォーキング等ができるようになると良い 障がい者スポーツができる環境(ブラインドサッカーの壁がほしい)	
環境(施設等)	交通手段(高齢者・障がい者) 公共交通機関(病院に行きやすい) 乗り合いタクシー(Mobi(モビ))の周知 交通の便は良くなっているが、不便を感じる方はいないか? 不便さの共有(不利益)	町内巡回バスの運行 運動公園を活用したウォーキング
民生委員・児童委員	民生委員・児童委員とは何か? どのような仕事があるの? 町内の民生委員・児童委員は充実しているか?	民生委員・児童委員に代わる町の職員(非常勤)の採用
防災	海のないまち 津波に無関心 避難の仕方	防災体験 防火教育の強化

		「防災(緊急時)」予測されるリスクと望ましい行動の明示 クーポンを付けて避難訓練者を増やす 町で防災業務を強化して、町から区や住民へ避難訓練の強化などを行う 防災体育館
	高齢者・障がい者の避難の仕方	
人口	後期高齢者の人数が増加している(労働人口の減少) 若者や子どもの数が少なくなっている(労働人口の減少)	若者や子どもが暮らしやすい環境づくり(子どもが預けやすい環境)
雇用	(地域の雇用)中学卒業後の就労 就職課題のある方々が気軽に働く場	中卒枠の採用(役場職員) 中卒・中退者のハローワーク 中学卒業前に町支援員が関わり就職に繋ぎやすくする 町内企業(中小企業・商工会)が町でハローワーク的な活動をする 支援する側・される側ではなく、みんながお互いを支え合っていると実感できる場所

【健康と福祉、子育ての「まちづくり目標」について考える】

意 見
ちむぐくる
平和学習
おすそわけ
ゆいまーるの町
男性支援
道の駅
若者(10~20代)支援
きらきらと輝く→自分らしく
育む、育み→ともに学び、ともに支える
すべての人が→自分らしくいられるまち
平和=福祉 ともに支え合う
世代や様々な枠組みを重ね合いから生まれるそれぞれが出す色合いを認め合える町
若者が本領発揮できるまち南風原
今は辛くても明日は良くなると確信できるまち
多角的視点を持った人が住む町になってほしい
お互いを認め合える居場所づくり
すべての人が活躍するまち→プレッシャーに感じるので避けた方が良い
すべての人が安心して暮らせるまち
自助共助→自己責任的に捉えられてしまうかっとしてほしい 公助が必要
文化センターを中心に平和のまちを打ち出す
福祉のまちを打ち出す
健康 長寿、ちむぐくるというものにこだわり過ぎで、そこは外していくと良い
子育て 「ともにつくる」よりも「みんなで一緒に」と言う方が良い
福祉 「障がい者」「高齢者」ではなく「すべての人を支援する」にした方が良い
農福連携
複合施設ができると良い

遊べる場
健康で過ごせるまち
ウェルビーイングダウン
子育てはじめの100ヶ月ビジョン
懸け橋プログラム
町の考え方の動画を作る(文章よりは映像の方が伝わりやすいかも)



【産業とまちの基盤の「課題解決方法」を考える】

項目	現状・課題	課題解決方法
強み	町民同士の繋がりが強い、各年代の繋がりが強い	
	イオン南風原店をバルジャと呼んでいるので良いと思う	ドナルドハウスを誘致する
	イオン→テスト販売がしやすい	
	南風原北・南 I.C→物流拠点化しやすい	・国内留学にぴったりでは? →海が無い(津波の心配減)
	那覇に近く、農地もあるのでバランスが良い	→交通アクセスが良い →大きい病院がある
	プログラミング教育	・人流が多いので広告液晶ディスプレイ
	IT人材を育てる	
	人財が多い(エッセンシャルワーカーなど)	
	植物が多い(観葉植物としてクワズイモの需要が高い)	
	公文書館を活用する	
農業	環境の杜を活用する	
	健康・福祉について意識の高い人が多い=民度が高い	
	農業についてわからない	農業について講演会を行う
	農業の担い手不足	担い手の育成
		新規就農者、認定農業者の支援
		女性起業者の支援
	農家の高齢化による離職と若手不足	農業青年クラブの活性化
		農業士会の充実
	エコファーマーの育成、環境配慮	食の安全確保、農業経営の改善、効率化を支援
	農家団体の減少	
	ファーマーズがもっと充実すれば担い手が増える?	
農業	子どもの農業体験が少ない	・地産地消を推進する ・地域農産物を活用する ・農業体験を増やす
	スマホに頼らず、収穫体験など外での活動を増やしてほしい	
	食育が必要	
	農業体験の場が減っている	
	自然体験をする場所がほしい	観光に繋げる
	農業と福祉の連携(農福連携)	農福連携の取組支援での遊休地活用
	農家の所得が低い	所得向上のための高付加価値化に取り組む
	農業を始めるにあたって、生活ができる収入の目安を知りたい	
	畑の単位面積の収入を上げる必要がある	
	初期投資が掛かる	公金でサポート
		農家への支援(農業機械のリース支援への取組)
農業	自給率を上げる(確保)すべきと思うが、適正な規模がわからない	安全・安心、美味しい以外の高付加価値 農作物ブランド化
	農地の整備が必要、集約化	・飛び地の解消
		・斜面が多い、土壌(アルカリ)→バナナ
	畑の環境強化、集約化	

	農家さんのサポート	役場の職員を専門で置く 「農業」を存続させる方針を町で決める 「夢」持てる農業を作る 技術(ノウハウ)の伝達法を編み出す
	都市化の中で農業とのバランスが心配	市民農園を作る 観光農園または市民農園への取組
	遊休地が多い	市民農園へ活用する 農福連携の取組支援での遊休地活用
	設備投資をするにしても、コストに見合った設備投資を要する	
	農業は温暖化や台風で安定しづらい	一年中働ける状況をつくる(施設の活用)
	農地転用する時の住宅地との棲み分け	
	地主が農地を貸したがらない(土地を取られる心配がある)	農地バンクを活用してもらうよう周知(PR)する
観光	観光資源が乏しい	インターチェンジが近いので観光 PR をした方が良い
	観光と平和のコラボ	広島原爆ドームが世界に知られるきっかけになった町
	「飯あげの道」がすごく滑る	
	祭りをもっと大きくやった方が良い	
	フリーWi-Fi エリアがなさすぎる	
	滞在させるための原理・原則がなされていない	
伝統工芸・芸能	紺のまちとして子どもから大人まで関わる取組	・紺の生地をどう使えるかみんなで考える ・紺小物の PR
	紺を町民が着用して愛着を持てるようにする	
	琉球紺があるのに「着物を纏う」習慣化の仕組みがない→行動まで伴わない	
	昔の南風原は紺のドレスで結婚式を行っていた	
	七五三、成人式、学校、役場、会社、文化センターなどで着付け体験+歴史を学ぶ	毎月 3 日に着物を着る条例(習慣化)
	紺等の伝統工芸に触れる機会がもっとあつたら良い	
	芸能のまちだけど、若者で芸能をやる人が少ない	
交通	高齢者にも利用しやすいような公共交通機関がある良い	町内巡回バス
	モノレールの延伸	
	鉄道を通してほしい	
	バスが来ない	バスがいつ来るか町の LINE で見られるようにする
		費用工面のため、大型液晶を役場前に設置する
	津嘉山はバスが不便(町内を移動する際に那覇を経由する必要がある)	町内巡回バス
	車が多くて危ない	・交差点の改良(右折帯を作るなど) ・町道の点検・調査が必要
	学校に車の乗り入れが多く怖い	

	交通量が増えて、道が混雑する 道幅が狭い mobi(モビ)の利用率を上げたい mobi(モビ)の周知 mobi(モビ)の利用方法の周知 mobi(モビ)…R6 1,000人/日、R7 1,400人/日 運行時間…8:00～20:00 利用者の98%が満点評価 社協と協力して mobi(モビ)アプリの使い方などレクチャーしている	体験イベントを行う
生活環境	建築費の高騰で住宅を建てられない人が増えている	
	良質な住宅を建てられる環境を整える必要があると思う	
	兼城地区では住宅地に通じた土地が少ない	
	最近新地アパートが目立つ	
	新築アパートが増えると、帰属意識の薄い人が多くなってしまう 集合住宅・分譲住宅の方が良い	
	土地が高い	
	津嘉山公園の子どもの遊び場が少ない	・遊具を増やす ・地域の公園の整備
	公園で遊べる遊具がほしい	・地域の小規模公園(字の広場)を活用する機会を作る
	公園整備＝滞在時間が長くなる	・公園に花をいっぱい植える ・サルスベリを植える
	街路樹がもっとほしい	街路樹を大きく育てる
		維持管理のしやすい樹種
		街路樹を住民が管理する→自分で出資する木々
	花が少ない	植物マップを作る →色々な種類がある(ハイビスカス、ガジュマル、トックリキワタなど) →ウォーキングになる
	日陰・木陰のある歩道	
	畠が続くと暗く、防犯灯が少ない	
	水の災害…住宅開発に伴い、雨水排水量が増加し、既存の施設では持たなくなる恐れがある	
	本部公園の下が陥没した	町道の点検・調査が必要
	インフラ整備の時期	シルバーメンバーに草刈りをさせる
交流	子ども目線の会議をしてもらう	
	引きこもりの方々が活躍できるような仕組みづくり	
物流	高架ガード下のスペースがもったいない→農作物を保存できるような冷凍倉庫や防災で活用できないか	
	交通の便が良い強みを生かして、公園の整	

	備を行う→周りの商業地にお金を落としてくれる	
ス ポ ー ツ・ヘル スケア	中学を卒業し、進路未決定の方が地域の企業・産業に働くまち	
	町内で消費を高める	
	南風原町でキャンプを行うチームとコラボした食べ物やグッズ	
	資料-5P16「集積している産業を生かした新たな展開について」…健康・食への意識が高い町民が多いので、それらの分野を取り入れたら良い	
	群大会・県民体育大会以外の住民と一緒に化する参加型受益者負担のイベントが少ない →1.子どもから年配の方まで 2.運動する人・しない人 3.協働の精神が生まれる仕組みがない	・市民駆伝(字の部、模合の部、男女混成、職域) ・五輪種目「オブスタクル」(障害物競走)
	スマホ中毒で猫背の子どもが多い→肩甲骨・股関節可動域改善	
	集約しやすい立地ながら参加型スポーツイベントが少ない	
	AED 常設がどこにあるかわからない	
	老若男女の運動が習慣化しやすい、集会ウォーキングコースが無い	黄金森～つかざん公園に木陰周回コース
まちづくり	人口が増加しているので、住民の多種多様なニーズも増えてくるのではないか？	LINE を活用して学校の連絡を一括する
	魅力の発掘	

【産業とまちの基盤の「まちづくり目標」について考える】

意 見
「みどりとまち」のキーワードを残したい
工夫と連携で産業が躍動するまち…「工夫と」→「AI や ICT」で効率化
支え合う農業
夢を持てる農業(若者が農業をしたいと思える夢を見ることができるよう)
産業・農業すべて南部地区で連携できる体制を
「連携する」は大事なキーワード
活気
ひろがり
「活力ある」というキーワードは良い
「繋がる」というキーワードも良い
みどり復活
共存 地域と行政みんながやりたくなる
空き家対策 10 年貸→契約(仮壇の管理も込み)
つかざん公園から黄金森公園まで信号にかかる周回コース
運動したくなる・続けられる木陰周回コース(2km 以上 8m 幅)
農村×商業
「耕作放棄地」をキーワードに入れてほしい→バナナ栽培で土砂災害対策
観光農園、週末健康公園
貸農園 120 人待ち→町が借り、指定管理で管理(トイレ、駐車場)

「稼げる農業」をキーワードに
住民が自分で行動できる条件設定と環境をつくる



【自治協働と広報、防災・環境の「課題解決方法」を考える】

項目	現状・課題	課題解決方法
自治協働	支え合う大切さを深掘りしたい→なぜ助け合う・支え合う事が必要なのか？	
	安心してボケられる地域とは？	
	横の繋がりを作る必要	地域で挨拶をしよう
	井戸端会議を最近見ない	加入にとらわれず顔見知り、挨拶を交わす間柄を
	自治会加入率が低い	・自治会活動の周知
	自治会加入者が少ない	・自治会の加入方法を充実させてほしい
	自治会のなり手不足	・活発な自治会を紹介、研修などを行う
	役員のなり手不足	・参加したら目に見える“得”する取組
	自治会長が忙し過ぎる問題	・自治会活動と親子食堂(子ども食堂)をセットで行う
	忙しくて勧誘にまで手が回らない	・SNSの活用(各字のSNS) ・自治会長の給与アップ
	新しい人たち(転入してきた人たち)はどのように感じているのか？	・学童を窓口とした地域行事への参加
	新しい住民の方が地域に入るきっかけづくり	・パーラーの運営
	自治会に入るメリットをもっと作る	・子ども向けのイベント開催(カードゲーム、上映会など)
	大人と子ども、地域でのコミュニケーション	・公民館で映写会をする(昔、PTAや子ども会で行っていたイベントの復活)
	子ども会がなくなってきた	・公民館がみんなの居場所(夜遅くまで開いている、リタイヤした方の居場所、子どもをみてくれる)
	学校行事と地域の交流	・公民館で子どもを見てほしい(本、おもちゃがある)
	地域行事への住民参加が少ない(特に子ども会)	・ワークショップ、勉強会、ゆんたく会を公民館で開催する
	コロナ禍前まではPTAなど活発だったが、コロナ禍以降はイベントが少なく関係が薄れている(喜屋武でも)	・公民館がファミサポの代わりになったら良い
	PTA加入が減っている	・昔の子ども遊びを高齢者の方が先生として参加するイベント
	青年会に入りづらい 働き盛り層(子ども層) 高齢者層	・青年会と学校の繋がり…エイサー→運動会
	青年会、PTA、子ども会の活動を活発にしてほしい	・青年会のイメージUP(教育・子育ての意識を入れる)
	青年会活動継続が難しい 入会者不足	
	「婦人会」が「女性会」になってから参加しやすくなった	
	女性会の高齢化、なり手不足	
	平日は家族の支援等で活動に参加できない	
	地域活動に参加する余裕がない	
	自治会に加入したくない人を無理矢理参加させる必要はあるのか？	
	社会教育福祉団体が弱体化している	
	困った時にどこに相談・連絡したら良いかわからない	
	地域の業者さんを紹介してほしい(水道・電	

	気) 自治会を通じて繋がりたい	
	不動産屋に町の情報を発信してほしい(地域行事など)	
	人材育成・確保	
	地域伝統芸能の継承	
	芸能(獅子舞など)子ども会の集まり	
	「地域に戻りたい」へ	
	「支え合う力」が同じ目標へ→早い復興に繋がる	
	災害後の復興に繋がる地域づくり	
	災害など何かあった時のために日頃から地域で繋がり、支え合いが必要	
広報・情報	広報誌は全戸配布されているか?	
	広報誌について、自治会で配布に差がある	
	自治会の情報を加入していない家庭に届けにくい	<ul style="list-style-type: none"> ・SNS 活用の人に教えてもらう(副業・在宅の仕事をしたい人に)
	情報を困った時にしか求めない	<ul style="list-style-type: none"> ・町で予算、字 SNS 運用条件(若者層向け)
	情報入手について、手段的に難しい人もいる	<ul style="list-style-type: none"> ・公式 LINE に子どもの情報を載せる(各団体も!)
	町公式 LINE の登録者が少ない	<ul style="list-style-type: none"> ・団体の会議の場を活用する
	議会だよりでしかわからない	
防災・防犯	防災意識は低い?	<ul style="list-style-type: none"> ・防災活動=地域を知る機会、繋がりを持つ機会
	9月が防災月間→10月にアンケート 意識が高まっていたかも(小・中学生)	<ul style="list-style-type: none"> ・ミニ防災士を育てる
	防災について意識を高める必要がある(意識が低い)	<ul style="list-style-type: none"> ・地区防災訓練を行う
	自主防災組織はあるが、何をしたら良いかわからぬ	<ul style="list-style-type: none"> ・防災士会を作る(防災リーダー)
	自主防災組織の取組が弱い	<ul style="list-style-type: none"> ・イベント的な防災体験
	地域防災計画がない	<ul style="list-style-type: none"> ・親子防災教育
	大雨時の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・情報発信の媒体を増やす
	地域によっては冠水する地域がある	<ul style="list-style-type: none"> ・LINE などで情報を回していくことが大事
	土砂災害のリスクが高いエリアの対策が必要	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣市町村と協力して防災
	ハザードマップの活用はされているか?まず、町民が見ているか?	<ul style="list-style-type: none"> ・避難者の数を想定しておく
	福祉避難所は充分なのか?(数・質)	
	使える井戸はいくつあるのか?	まち歩きイベントをする
	災害の際に連絡先がわからない	<ul style="list-style-type: none"> ・防災マップの周知をしっかりと/or(看板など)
	災害時の避難先がわからない	<ul style="list-style-type: none"> ・DX の活用(スマホなど) ・南風原町で決定して住民に周知 ・災害時、外に出たらすぐ避難所が分かるようにする ・受け入れ先の確保(病院・店舗)

	防災無線が聞こえづらい	
	公園に防災倉庫を設置してほしい	
	災害時(特に津波)に自動車道の発達に伴い、他市町村から避難してきた人の往来が多くなる	日頃から近隣町村(字境目)との交流、情報交換
	子どもが一人の時、災害にあうことが不安	子どもと一緒に防災マップを作る 地震の時、火事の時などの対応を練習しておく 家の近くの避難場所を確認しておく
	南風原町は道路が通行止めになると孤立しないか?	徒歩での避難ルートを確認する
	災害後の復興に繋がる地域づくり	
	災害など何かあった時のために日頃から地域で繋がり、支え合いが必要	
	声かけ事案(危険か危険じゃないか判断が難しい)	・交番を増やす ・死角になりやすい場所を減らす ・地域の大人が見守る ・登下校時にシルバー人材など見守り活動 ・青年会の見守りパトロール ・集団登下校
	全国的に犯罪が増えた気がする(報道が多い)	
	子どもだけで遊ばせるのは不安	
環境	夜道が暗い	
	町営プールがあれば良いと思う	
	子ども達が自然と触れ合える場所を作る	
	東新川にビオトープを作りたい	
	学童の待機児童が多い(特に津嘉山) 子ども会を発足できたらと思う	・地域の“話し”を聞き、繋ぐ人の採用 ・相談窓口の明確化
	騒音問題(人によっては感じ方が違う)	
	子どもたちの声が騒音としてクレームが上がる場合もある	
	長堂川が臭い	・地域への還元(ゴミ拾いなど) ・下水道の充実 ・クリーンアップ作戦
	川が汚れている	・ゴミ拾いの日を作る(家の周り) ・地域やグループで定期的にゴミ拾いをする
	川遊びできるようにキレイにしたい	・意図的に草刈りをするなどして、ポイ捨てさせない心理にさせる ・意識づけ・動機づけのイベント開催 ・スポゴミ(スポーツゴミ拾い)大会 ・カゴに重石(水入り)を入れ固定、ペットボトルは潰す
	水辺周辺の環境整備	
	下水道の充実	
	散歩していくゴミが落ちている	
	ポイ捨てが酷い(公園・スージ道(狭い道))	
	ゴミが風で飛ばされている(ペットボトル、空き缶)	
	ゴミの出し方、リチウム電池等の出し方の周知ができているか?	
	一人一日当たりのごみ排出量が減っているのはなぜ?	
	リサイクルの意識が高い人のマネをする	
	ゴミ出しの日の景観が悪い	資源ごみ入れのカゴ等のデザインを統一
	曜日にゴミが出せない人が安心してゴミ出し	・利用したい人たちで利用できるゴミステ

できる環境づくり	ーション ・高齢者や障がいを持っている方が、ゴミを出せない時に近所の人が出してくれる
ゴミステーションを作つてほしい	
制服のリユース	子どもから環境問題の意識を高めていく
環境教育を充実してほしい	
地球環境に対する関心を高めたい	子どもから環境問題の意識を高めていく
道脇の雑草(見通しが悪い)	
野良猫被害が多い	子どもから環境問題の意識を高めていく
カラスが多い	
公園が荒れている	

【自治協働と広報、防災・環境の「まちづくり目標」について考える】

意 見
「人も自然も笑顔あふれるまちを“私”がつくる」
“私”がつくる ともに生きるまち(自己ごと、協働)
「～のまち」ではなく「～のまちを私がつくる」「笑顔あふれるまちを私がつくる」→行動を後ろに持つていく
人も自然も笑顔あふれる
笑顔
地域
安全・安心
繋がり
「ゴールド人材センター」
ゴールド人材センターの設立(できる人が、できる時に) 徳島マッチボックス参考になりそう
ボケ老人が大切にされるまち
誰かの“やってみたい”を応援するまち
自己ごととして考える
怖くないまち
子どもが一人でも歩けるまち
みんなでみんなを見守るまち
どの世代も安心
一人でも安心
安心の巡るまち
子どもから老人まで誰でも安心
帰りたいまち
自分のまちを知ろう！
観光協会とタイアップした字歩きツアー、自治公民館が避難所のツアーを計画する
「行財政計画」は硬い
小・中・高校生の地域活動や行政への参画
顔が見える関係
安全より安心
誰もが
住みやすい
発展し続ける
便利なまち
「みどり」…自然、農業に繋がる
認め合う 尊重
笑顔があふれるまち

優しいまち
 心豊かな人が育つまち
 ちむぐくる
 「デジタル」→重要！
 デジタルとアナログが融合するまち
 迅速な情報発信 デジタル活用
 行政手続きのデジタル化

